



2015年9月8日

公益財団法人 旭硝子財団 第24回「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査結果

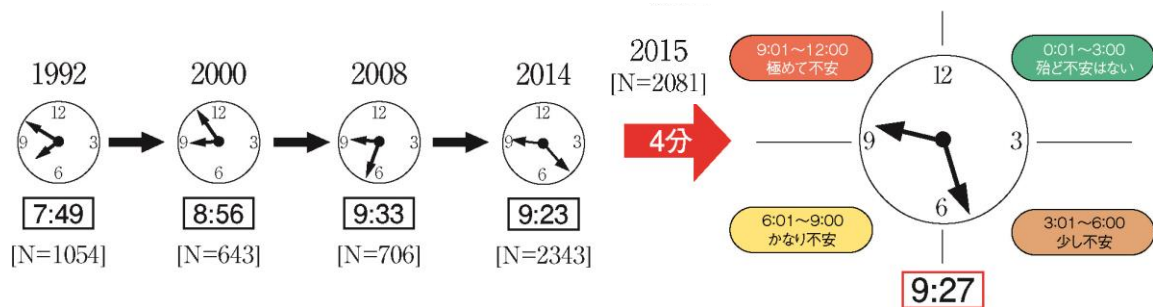
- 全回答者の平均危機時刻は9時27分で昨年より4分進み、調査開始以来3番目に進んだ時刻。
- 日本は9時9分で昨年より5分進んだものの、世界平均より危機意識が低い。
- 日本を含め調査10地域のうち、依然、東欧・旧ソ連を除き全域で「極めて不安」の領域。
- 危機時刻を決める上で念頭に置いた項目を世界全体でみると、昨年に続き、「気候変動」が最も多い。
- 一方、念頭に置いた項目を危機時刻でみると、「生物多様性」と「人口」が9時36分で、「気候変動」の9時26分を凌ぎ最も進んでいる。
- 2011年から2015年の環境危機時刻の推移について回答者を世代別にみると、すべての年度において60歳台以上が、60歳台未満より危機意識が高い。

公益財団法人旭硝子財団（理事長：石村和彦）は、1992年より毎年世界の環境有識者を対象に環境アンケート調査を実施しております。今年の世界212カ国に調査票を送付し、152カ国、2,081名から回答を頂きました。以下に本年度の調査結果の要点を発表致します。（調査結果の詳細は「第24回地球環境問題と人類の存続に関するアンケート調査報告書」に記載しており、お手元にお届けすると共に、9月8日午前10時より財団ウェブサイトでもご覧になれます）。

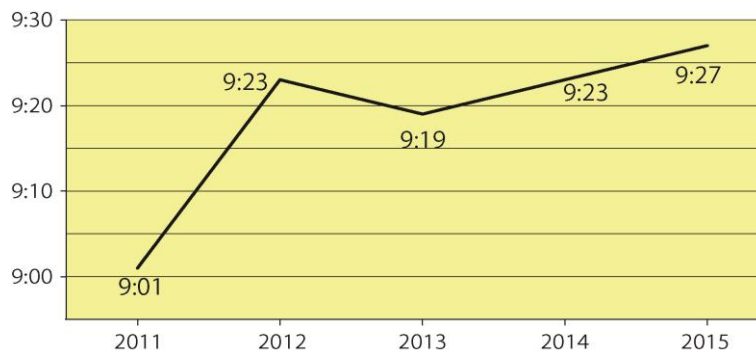
1.環境危機時計®～人類存続の危機に対する認識

1-1 環境危機時刻

- ・全回答者の平均危機時刻は昨年より針が4分進んで9時27分。2007年の9時31分、2008年の9時33分に続いて1992年の調査開始以来3番目に進んだ時刻となっている。



危機時刻経年変化（全体）



過去5年間の危機時刻経年変化（全体）

(全体)

1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
7:49	8:19	8:47	8:49	9:13	9:04	9:05	9:08	8:56	9:08	9:05	9:15	9:08	9:05	9:17	9:31	9:33	9:22	9:19	9:01	9:23	9:19	9:23	9:27

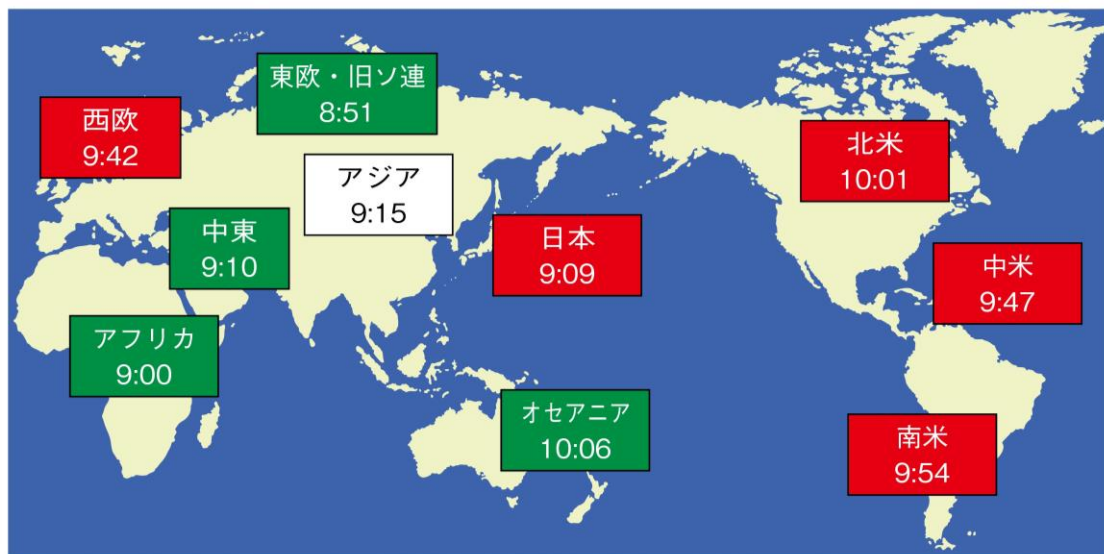
調査開始以来、■は危機感が最も低く、■は最も高い

環境危機時刻の推移表



経年変化折れ線グラフ

- 日本を含めて調査 10 地域の内、5 地域（西欧、日本、北米、中米、南米）で針が進み、針が進んだ地域は昨年の 3 地域（中東、アジア、オセアニア）より増えている。
- 最も針が進んだのは中米で（9 時 12 分 → 9 時 47 分）、南米（9 時 23 分 → 9 時 54 分）がこれに続く。
- 逆に最も時間が後退したのは中東（9 時 21 分 → 9 時 10 分）で、アフリカ（9 時 09 分 → 9 時 00 分）が続く。
- 昨年と同様、調査 10 地域の中で唯一東欧・旧ソ連が 8 時台（「かなり不安」）の領域に留まり、他の地域はすべて「極めて不安」の領域となっている。
- アジアは昨年と同じ時刻で 9 時 15 分。



■は昨年より時刻が進んだ地域・国
 ■は昨年より時刻が戻った地域・国
 □は昨年と時刻が同じ地域・国

世界地図

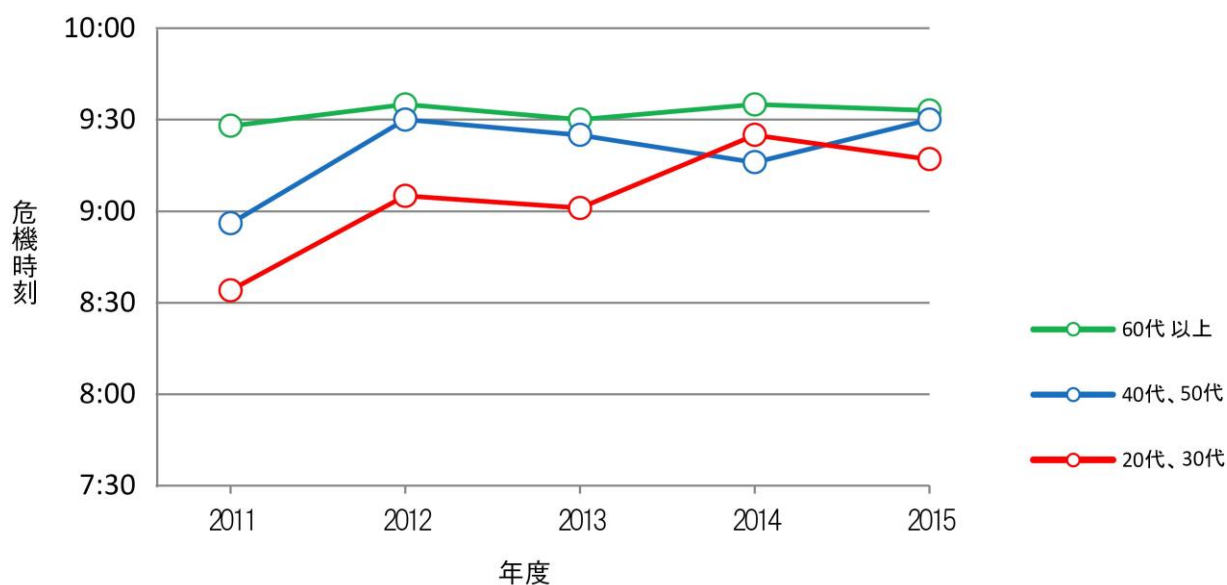
1-2 回答者の年齢層による環境危機時刻の推移 (2011~2015)

今年(2015)は1992年に環境危機時計[®]の調査を開始以降、初めて時刻の推移を世代別に調べ、2011年から2015年の5年間について世代別環境危機時刻を分析した。

- ・2011年から2015年のすべての年度において、60代以上の回答者の危機時刻が60歳未満より進んでいる。
- ・60代以上の危機時刻は9時28分から9時35分の間でほぼ安定しており、過去5年間の環境危機時刻の変化はかなりの部分が60歳未満の回答者により生じている。
- ・過去5年間の危機時刻の推移をみると、「60代以上」、「40代、50代」、「20代、30代」のすべての年代において、概ね危機意識は上昇傾向にある。

環境危機時刻の世代別推移

	2011	2012	2013	2014	2015
平均危機時刻	9:01	9:23	9:19	9:23	9:27
60代以上	9:28	9:35	9:30	9:35	9:33
40代、50代	8:56	9:30	9:25	9:16	9:30
20代、30代	8:34	9:05	9:01	9:25	9:17



2.危機時刻記入にあたって念頭においた項目（全体）

調査は、危機時刻を決める上で、次の11項目から、回答者が住む国または地域において最も深刻だと思われる環境問題を1位～3位で選んでいただいた。（詳しくは調査報告書参照）

念頭においた項目：

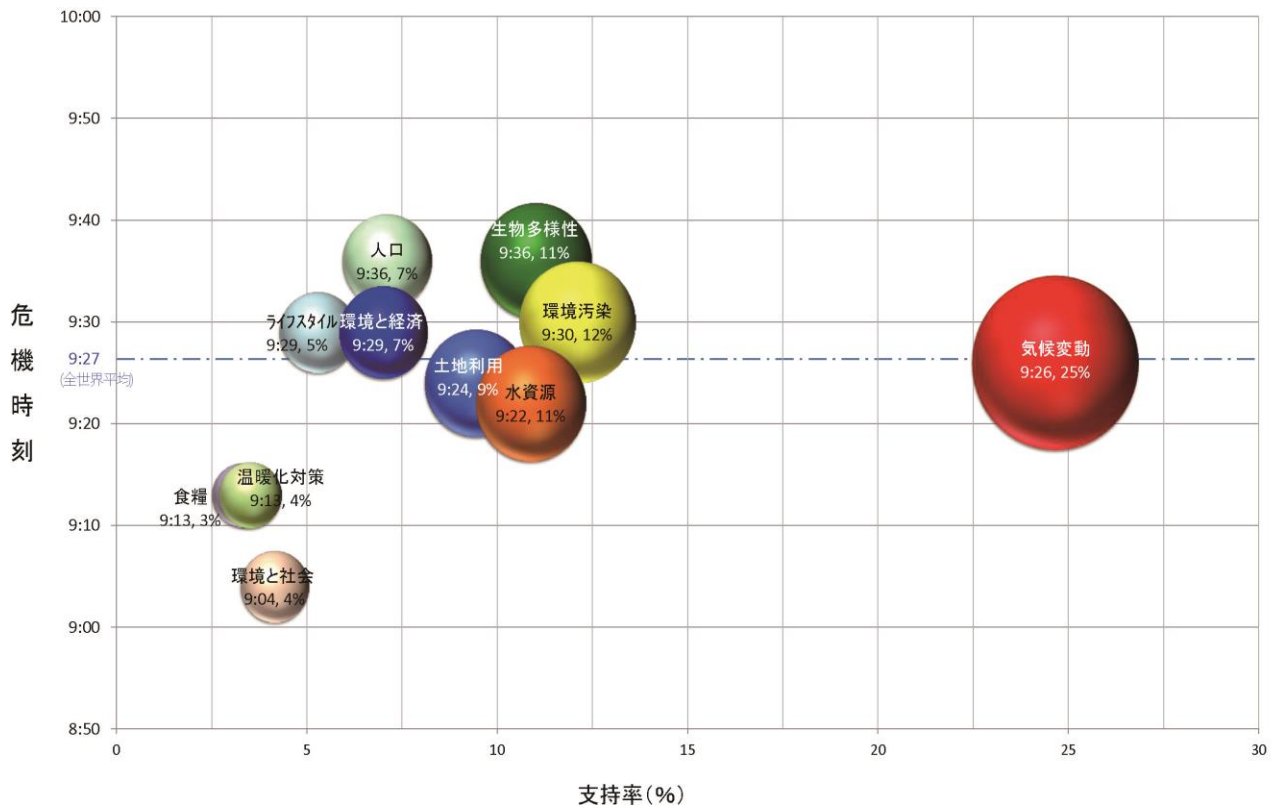
1. 気候変動、2. 生物多様性、3. 土地利用、4. 環境汚染、5. 水資源、6. 人口、7. 食糧、8. ライフスタイル、9. 温暖化対策、10. 環境と経済、11. 環境と社会

2-1 念頭においた項目の支持率

- ・危機時刻の記入にあたり念頭においた項目の支持率（第1～3位選択）について世界全体では、昨年同様「気候変動」が最多数で25%を占め、次いで「環境汚染」12%、「水資源」と「生物多様性」11%が続いている。

2-2 念頭に置いた項目の危機時刻順位

- ・危機時刻を高い順番からみると、昨年と同様、「生物多様性」と「人口」が9時36分で最も高くなっている。
- ・危機感が最下位の「環境と社会」（9時4分）を含め、11項目すべてが「極めて不安」の領域となっている。



2-3 念頭においた項目の地域別選択傾向

- ・全体ではほとんどの地域で「気候変動」が25%と最も多く、「環境汚染」(12%)と「水資源」「生物多様性」(11%)の順位となっている。
- ・一方、中国は「環境汚染」、南米は「土地利用」、インドと中東は「水資源」、オーストラリアを除くオセアニアは「気候変動」「生物多様性」が1位を占めている。

	1. 気候変動	2. 生物多様性	3. 土地利用	4. 環境汚染	5. 水資源	6. 人口	7. 食糧	8. ライフスタイル	9. 温暖化対策	10. 環境と経済	11. 環境と社会
全体	25%	11%	9%	12%	11%	7%	3%	5%	4%	7%	4%
アジア (全)	25%	8%	6%	16%	10%	7%	5%	5%	5%	7%	4%
日本	32%	9%	5%	8%	6%	8%	6%	6%	7%	7%	5%
インド	17%	15%	9%	15%	18%	17%	1%	2%	1%	2%	3%
中国	15%	4%	5%	29%	14%	5%	6%	4%	5%	9%	3%
台湾	27%	3%	12%	22%	13%	2%	3%	3%	3%	5%	7%
韓国	32%	9%	2%	16%	5%	3%	2%	20%	1%	6%	3%
アジア (日、印、中、台、韓以外)	25%	16%	12%	10%	13%	9%	2%	1%	3%	4%	4%
オセアニア	28%	18%	8%	6%	8%	10%	0%	3%	3%	8%	4%
オーストラリア	31%	19%	9%	4%	8%	11%	0%	2%	3%	6%	4%
オセアニア (オーストラリア以外)	18%	18%	7%	11%	10%	6%	2%	4%	1%	15%	2%
北米	33%	11%	8%	6%	11%	10%	1%	5%	2%	7%	4%
米国	33%	11%	8%	6%	11%	11%	1%	5%	3%	6%	4%
カナダ	32%	13%	9%	7%	9%	8%	1%	4%	2%	11%	3%
中米	21%	11%	12%	8%	18%	5%	3%	6%	3%	7%	3%
南米	17%	18%	23%	8%	12%	3%	2%	5%	1%	7%	3%
西欧	23%	16%	13%	8%	7%	8%	1%	10%	2%	8%	3%
英国	26%	14%	12%	6%	5%	8%	1%	11%	2%	11%	4%
西欧 (英国以外)	22%	17%	13%	9%	8%	8%	1%	9%	2%	8%	3%
アフリカ	23%	16%	18%	6%	13%	7%	5%	3%	1%	3%	5%
中東	16%	10%	13%	10%	30%	5%	2%	2%	3%	6%	2%
東欧・旧ソ連	16%	14%	13%	11%	13%	4%	2%	5%	1%	11%	7%
途上地域	18%	11%	11%	16%	15%	6%	4%	4%	3%	7%	4%
先進地域	30%	11%	8%	9%	8%	8%	3%	7%	4%	7%	5%

■は地域・国で最大選択率、■は地域・国で第2位の選択率

各地域の念頭に置いた項目の選択傾向

2-4 念頭においた項目の危機時刻の地域分布

- ・全体では、「生物多様性」と「人口」が共に 9 時 36 分を示して最も危機意識の高い項目となり、次いで「環境汚染」が 9 時 30 分で続いている。
- ・「気候変動」は念頭においた項目では 1 位に取り上げられたが、時刻は 6 番目の 9 時 26 分となっている。
- ・危機時刻で 10 時台を示した項目が最も多いのは南米とオセアニアで、アジアではすべての項目が 9 時台に留まっている。

	全体	1. 気候変動	2. 生物多様性	3. 土地利用	4. 環境汚染	5. 水資源	6. 人口	7. 食糧	8. ライフスタイル	9. 温暖化対策	10. 環境と経済	11. 環境と社会
全体	9:27	9:26	9:36	9:24	9:30	9:22	9:36	9:13	9:29	9:13	9:29	9:04
アジア (全)	9:15	9:13	9:16	9:14	9:32	9:14	9:16	9:07	9:16	9:03	9:15	8:54
日本	9:09	9:16	9:23	8:59	9:05	8:46	9:11	8:58	9:28	9:03	9:00	8:45
インド	9:22	8:35	8:53	9:29	9:53	9:14	9:49	-	-	-	-	9:33
中国	9:29	9:14	8:46	9:27	9:53	9:32	9:12	9:13	9:00	9:00	9:32	9:33
台湾	8:29	8:39	9:56	8:39	8:50	8:25	8:32	-	8:41	-	8:07	8:01
韓国	9:19	9:26	9:47	-	9:05	7:51	-	-	9:23	-	9:46	-
アジア (日、印、中、台、韓以外)	9:30	9:37	9:26	9:36	9:16	9:35	9:28	11:09	-	-	9:08	9:43
オセアニア	10:06	10:13	10:19	9:30	10:47	9:55	10:22	-	10:21	-	9:58	8:31
オーストラリア	10:01	10:17	10:26	9:13	10:35	9:43	10:18	-	10:04	-	10:14	8:20
オセアニア (オーストラリア以外)	10:22	10:11	10:09	10:41	10:56	10:38	-	-	-	-	10:27	-
北米	10:01	10:09	9:59	9:43	10:03	9:42	10:13	8:48	9:50	9:59	9:56	9:21
米国	10:02	10:07	10:03	9:46	10:02	9:45	10:11	8:53	9:49	9:55	9:49	9:24
カナダ	9:54	10:11	9:42	9:48	10:04	9:12	10:34	-	10:17	-	10:26	-
中米	9:47	10:03	10:14	9:23	8:59	9:45	9:47	-	10:10	-	9:31	9:19
南米	9:54	9:38	9:59	10:02	9:05	10:16	10:25	10:38	10:01	-	10:06	10:38
西欧	9:42	9:44	9:42	9:28	9:10	9:38	10:07	-	9:51	10:11	9:32	9:33
英国	9:49	9:37	10:06	9:35	8:46	8:53	10:26	-	9:58	10:13	9:51	-
西欧 (英国以外)	9:39	9:49	9:36	9:24	9:14	9:43	10:01	-	9:49	10:10	9:20	9:34
アフリカ	9:00	8:29	9:32	9:00	8:38	8:33	8:38	9:45	9:55	-	10:32	9:37
中東	9:10	8:47	9:07	9:43	8:17	9:42	10:10	-	-	8:51	-	10:18
東欧・旧ソ連	8:51	9:01	8:56	9:04	8:46	8:15	-	-	7:42	-	8:59	8:43
途上地域	9:26	9:13	9:26	9:29	9:37	9:26	9:23	9:36	9:12	9:11	9:36	9:24
先進地域	9:27	9:34	9:44	9:15	9:14	9:13	9:45	8:50	9:36	9:14	9:22	8:52

■は11時台、■は10時台、□は9時台、■は8時台、■は7時台

念頭にした項目の危機時刻の地域分布

本年は問1で1位に選択した項目と最も密接に関係していると考えられる項目並びにその項目を選んだ理由についても回答者の意見を伺いました。詳細は調査報告書に記載しております。

なお本調査は回答者から世界各国における環境問題の実情やご意見、改善策を記入して頂く自由記述欄を設けております。今年は海外124カ国、919件、国内276件の合計1,195件と、調査開始以来2番目に多いご意見を頂きました。自由記述は問2-2-3へのご意見と共に9月8日午前10時より財団ウェブサイトに掲載しております。

本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人旭硝子財団 事務局長 安田哲朗

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ2階

Tel: 03-5275-0620 Fax: 03-5275-0871 e-mail: post@af-info.or.jp

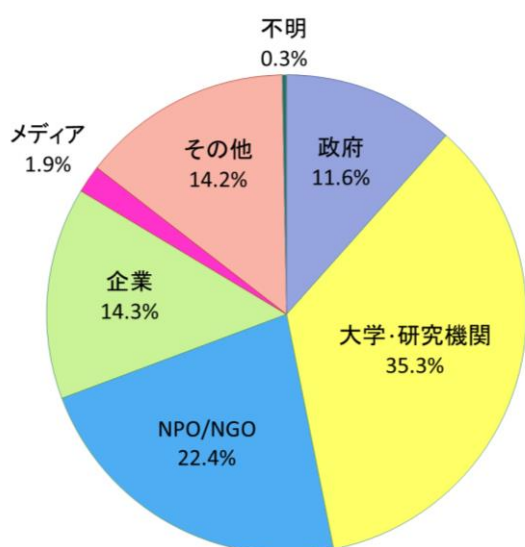
URL: <http://www.af-info.or.jp>

添付資料

●「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」について

旭硝子財団は、1992年以來、世界各国の政府・自治体、NPO/NGO、大学や研究機関、企業、マス・メディア等で環境問題に携わる有識者の方々が、環境問題に対する様々な取り組みについてどのように認識しているかを明らかにするアンケート調査を行っています。毎年4月に調査票を送付し、6月までに回答を得、世界各地のご意見を比較・分析して9月に調査結果を発表しています。調査票は日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、フランス語の6カ国語で作成しております。

本年度は日本を含め212カ国に調査票を送付し152カ国から回答を得ました。回答者の属性別比率は、多い順から大学・研究機関、NPO/NGO、企業、中央政府・地方自治体、マス・メディアとなっております。



調査票送付国数

地域	国数
アジア	24
オセアニア	16
北米	2
中米	29
南米	12
西欧	27
アフリカ	57
中東	16
東欧・旧ソ連	28
日本	1
合計国数	212

●本年度の調査概要

調査時期：2015年4月から6月

調査対象：世界各国の政府・自治体、NPO/NGO、大学・研究機関、企業、マス・メディア等で環境問題に携わる有識者（旭硝子財団保有データベースに基づく）

送付数：25,306（海外 24,070 + 国内1,236）

回収数：2,081

回収率：8.2%

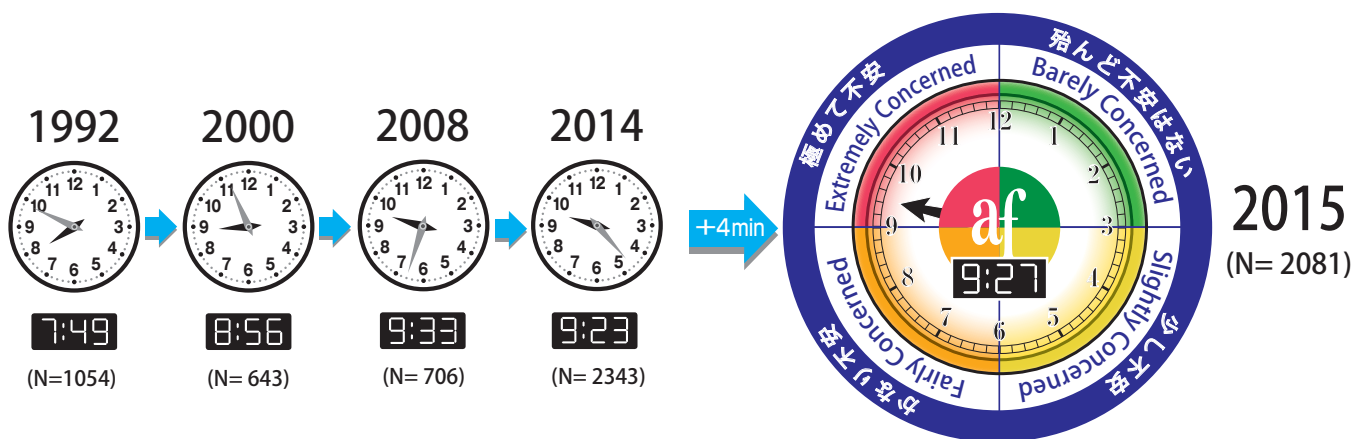
地域別の回収結果：

日本	452	21.7
海外	1629	78.3
全世界 合計	2081	100
アジア（日本含む）	1116	53.6
オセアニア	88	4.2
北米	238	11.4
中米	51	2.5
南米	115	5.5
西欧	242	11.6
アフリカ	132	6.3
中東	41	2.0
東欧・旧ソ連	58	2.8
全世界 合計	2081	100
先進地域 （日本、北米、西欧、韓国、台湾、オーストラリア、シンガポール）	1146	55.0
途上地域（上記以外）	935	45.0
全世界 合計	2081	100

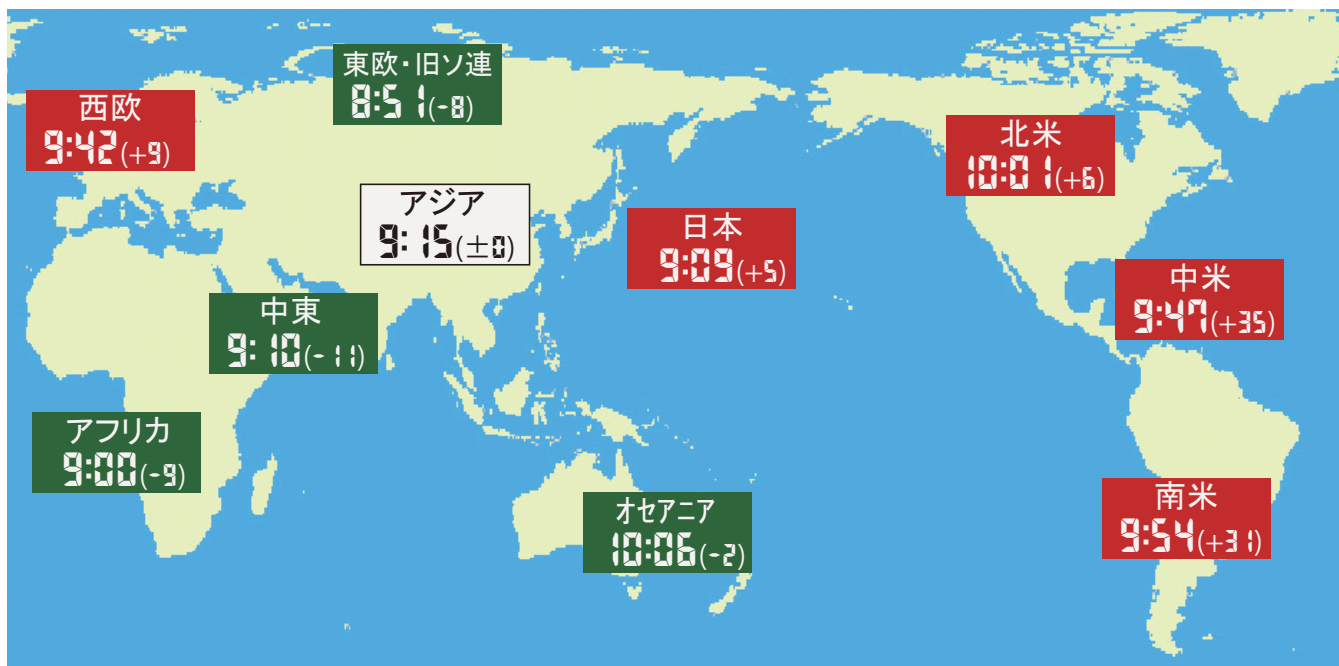
環境危機時計®

地球環境の悪化に伴って回答者が人類存続に対して抱く危機感を、時計の針で表示する「環境危機時計®」を独自に設定し、毎年危機感の認識調査をしています。

環境危機時刻の経年変化



各地域の危機時刻



(赤でハイライト: 昨年より時刻が進んだ地域・国 / 緑でハイライト: 昨年より時刻が戻った地域・国)

※環境危機時計®を含む「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」の調査結果、報告書は旭硝子財団ホームページに掲載しています。<http://www.af-info.or.jp>

af 公益財団法人 旭硝子財団
THE ASAHI GLASS FOUNDATION